

「かわいい」から考える日本と日本語

——言語から文化をとらえる授業の試み——

秋 田 哲 郎

1. はじめに

言語は、その言語を用いている人々の文化やものの見方・考え方と密接に結びついている。国語科では、特に古典の学習を通じて昔の人のものの見方・考え方に触れたり、日本文化の独自性に気づかせたりしていくことが、小学校・中学校・高等学校の国語科学習指導要領の指導事項として挙げられており、授業実践の試みも様々になされている。グローバル化する社会の中で、日本の文化や日本人のものの見方・考え方についてしっかりと考える機会を持つことは、今後ますます重要になってくると考える。

しかしながら、特に小学校・中学校では、日本の文化や日本人のものの見方・考え方について考える授業が十分に行われているとはいいがたい。中学2年生を対象に実施したアンケート^①では、「小学校で、日本の文化や日本人のものの見方・考え方について考える国語の授業をどの程度受けましたか」という項目について、「とても多く受けた」「多く受けた」と回答した生徒は27.5%にすぎない^②。他教科においても同様で、「小学校で、日本の文化や日本人のものの見方・考え方について考える国語以外の授業をどの程度受けましたか」という項目について、「とても多く受けた」「多く受けた」と回答した生徒はわずかに15%である^③。このアンケートはあくまでも生徒の意識調査であり、授業は実際には行われていたのかもしれないが、生徒には学んだ意識があまりないと言える。小学校で日本の文化や日本人のものの見方・考え方について考える国語の授業を受けたという生徒に、授業内容を尋ねたところ、「和釘」や日本の衣食住についての説明的な文章を読む、『枕草子』をはじめとする古典を読むといった内容を挙げている生徒が多くいた。このうち、説明的な文章を扱う授業においては、その文章で解説されている日本の文化や日本人のものの見方・考え方を学ぶことができると考えられるが、古典には日本の文化や日本人のものの見方・考え方が直接書かれているわけではない。坂東智子は、小学校の国語教科書における『枕草子』の学習内容・学習活動について整理し、1社が音読中心の学習活動、他の4社が「音読→現代との比較→季節で素晴らしいと感じることを書き交流する」という学習活動を設定している^④。音読や『枕草子』をまねて文章を書く活動は、『枕草子』という古典作品に親しむ上では有効な課題であるが、『枕草子』の文章に日本の文化や日本人のものの見方・考え方を思いだしていくためにはこの点について掘り下げていく課題が必要であろう。ここでは『枕草子』を例に挙げたが、他の古典教材においても、このような課題はほとんど見られない。この事情は中学校においても同様である。中学校の国語教科書に掲載されている古典の文章に付された学習

課題（てびき）のうち、発展的な課題を見ても、「『扇的』」に登場する人物達の行動や心情から、どのようなものの見方や考え方を読み取ただろうか。それに対する自分の考えを述べてみよう。」（光村図書2年・平家物語）・「『旅立ち』『平泉』『立石寺』のそれぞれに描かれた情景と芭蕉の心情について話し合おう」（教育出版3年・奥の細道）といった、一つ一つの古典を理解したり古典に親しんだりする上では非常に有効な課題が設定されているものの、作品を超えた視野から日本の文化や日本人のものの見方・考え方について考えさせることを意図した課題はほとんどみられない。

たしかに小学生・中学生にとって日本の文化や日本人のものの見方・考え方をとらえるに至る課題は難しく、抵抗を感じる生徒も多いと考えられるが、新しい学習指導要領の改訂を巡って行われた中央教育審議会教育課程分科会「国語ワーキンググループ」や「言語能力の向上に関する特別チーム」の審議では、次のように、小学校・中学校の古典を扱った授業の中で現代にもつながる日本人のものの見方や考え方に触れることや、言語の背景にある文化やものの見方・考え方を学ぶことの重要性が述べられている。

○また、例えば、小・中学校において、古典の現代語訳や古典について解説した文章などを読み、現代にもつながる日本人のものの見方や考え方に触れ、高等学校の「言語文化（仮称）」において、更に深く考察するなど古典についての理解を発達段階に応じて深めていくことが考えられる。^⑤

○言語の背景にある文化的規範を理解していないと、その言語を適切に使うことは難しい。言語を学ぶことは、その言語を創造し継承してきた文化や、その言語を母語とする人々のものの見方や考え方を学ぶことでもある。^⑥

小学校・中学校においても、古典などを扱う中で、日本の文化や日本人のものの見方・考え方について積極的に考えさせるような授業が必要と考える。

このような認識のもと、「かわいい」をテーマにした文章を読んだり、「かわいい」という意味を表す古今の日本語について調べたりする中で、日本語の背景にある文化や日本人のものの見方・考え方について考えていく授業を中学生に対して試みた。「かわいい」は、中学生が日常的に用いている身近な語であり、これを授業のテーマとすることで抵抗を感じることなく学習に入ることができると考えた。また、今回の授業で扱う評論文によれば、「かわいい」という語は日本が「小ささの美学」という特徴のある文化を持つことを表す語であるほか、未成熟なものや壊れやすく弱々しいものを肯定する日本独自の認識のありようを表す語でもある。「かわいい」に関して書かれた文章を読むことで、日本の文化や日本人のものの見方・考え方の一面について考えていくことができると考えた。また、「かわいい」という語は、「21世紀に入って世界で最も広まった日本語」という見解があり^⑦、この語が示す日本的なものの見方・認識のあり方は、広く海外の人々から注目され、受け入れられてもいる。海外での「かわいい (Kawaii)」についての理解は、日本における「かわいい」と必ずしも一致しないが、一つの日本語が諸外国の人々にどのように理解され、受容されているかを知ること、日本語や日本人のものの見方・考え方について考え

る上で意味を持つものになると考えた。

本稿では、授業の詳細について報告するとともに、「日本語の背景にある文化や日本人のものの見方・考え方について積極的に考える」という授業の主たるねらいがどの程度達成できたかについて、生徒の各課題への取り組み方、ワークシートの記述内容、アンケート調査から判断することにした。

2. 授業の概要

(1) 実施時期と対象

(実施時期) 2015年11月・12月

(対象) 筑波大学附属中学校3年1組～5組(男子 100名, 女子 101名, 合計 201名)

(2) 授業を受ける生徒

授業の対象となる生徒は、中学校において日本語の背景にある文化や日本人のものの見方・考え方についてまとまった時間をかけて考える国語の授業は受けてきていない。その一方で、古典の登場人物や作者のものの見方・考え方をとらえたり、古典と現代の文章を重ねて読んで物事を考えたりする授業は受けてきている。今回の授業では、これまでの授業をいかして、古典に表れたものの見方・考え方を現代にも通じる日本人のものの見方・考え方としてとらえたり、古今の様々な文章をもとに日本の文化について考えていく授業を行うことにした。

(3) 目標

- 日本語の背景にある文化や日本人のものの見方・考え方に興味を持ち、積極的に考えようとする態度を育てる。
- 「かわいい」をテーマとして書かれた文章や資料などを読み、読みとったことを基に日本の文化や日本人のものの見方・考え方について自分の考えを持つ。
- 「かわいい」に関係する言葉の成り立ちや意味の変化を知る活動を通じて、言葉についての理解を深める。

(4) 教材

- 「発見する言葉―枕草子」(学校図書『中学校国語3』)
- 松尾 聡・永井 和子『新編日本古典文学全集18・枕草子』(小学館, 1997年)
- 四方田犬彦『「かわいい」論』(筑摩書房, 2006年)
- Manami Okazaki & Geoff Johnson. *Kawaii!: Japan's Culture of Cute*. Prestel Pub. 2013.
- オンライン辞書サイト

(5) 授業展開(全11時間)

次	主な学習内容と学習活動	教師の指導と支援
1	<p>○「かわいい」という言葉から思い浮かぶこと、最近どのように使ったかを出し合う。</p> <p>○授業の計画と目標を知る。</p>	<p>○ワークシートに記入させた後、発表させ、黒板に書く。「かわいい」という言葉から思い浮かぶものの共通点を考えさせる。</p>
2	<p>○『枕草子』第151段「うつくしきもの」全文を音読する。</p> <p>○およその内容をつかんだ後、作者の「うつくしきもの（かわいいもの）」についての見方・考え方をとらえ、現代を生きる自分たちと共通するところや異なるところについて考える。</p>	<p>○歴史的仮名遣いに注意しながら音読するように伝える。</p> <p>○必要に応じて、現代語訳と注を参照させたり解説を加えたりする。第一次で行った、「かわいい」という言葉から思い浮かぶものを挙げる活動を振り返りながら、作者と自分たちを比較させる。</p>
3	<p>○現代語「かわいい」と「かわいい」という意味を含む5つの古語について辞書で調べる。</p> <p>○『枕草子』「うつくしきもの」の一節になぜ「らうたし」が用いられているかについて考える⁽⁸⁾。</p>	<p>○古語については、語の原義や語義の変遷などに注目させる。それぞれの古語の意味の違いをとらえるよう指示する。</p> <p>○古語の意味の違いについての理解をもとに、本文の内容について考えさせる。</p>
4	<p>○「かわいい」をテーマとして書かれた現代の評論文とKawaiiを紹介した英文文献を読み、班で四つの課題に取り組む。四つの課題について、各班でワークシートにまとめる。</p> <p>○四つの課題について、各班で発表を行う。</p> <p>「かわいい」という日本語の背景にある日本の文化や、「かわいい」という語から見えてくる日本人のものの見方・考え方について考えを深める。</p>	<p>○机間巡視を行いながら個人・班に声をかけ、どこでつまづいているかを聞き、どのようなところに着眼して考えていけば良いかについてアドバイスをを行う。</p> <p>○各班のワークシートの着眼点やまとめ方の特徴、工夫などについて、発表になかった部分を指導者から補足する。</p>
5	<p>○「『かわいい』から考える日本と日本語」というテーマで自分の考えを書く。</p>	<p>○机間巡視を行いながら、なかなか書き始められない生徒にアドバイスする。</p>

(6) 評価について

〈観点別評価基準〉

(国語への関心・意欲・態度)

関①日本語の背景にある文化や日本人のものの見方・考え方に興味を持ち、積極的に考えようとしている。

(読む能力)

読①「かわいい」をテーマとして書かれた文章や資料などを読み、読みとったことを基に日本の文化や日本人のものの見方・考え方について自分の考えを持つことができている。

(言語についての知識・理解・技能)

言①「かわいい」に関する言葉の成り立ちや意味の変化を知る活動を通じて、言葉についての理解を深めている。

〈授業展開と評価基準（評価材料）〉

第二次……関①・読①（行動観察・ワークシートの記述・定期考査）

第三次……言①（ワークシートの記述・定期考査）

第四次……読①（ワークシートの記述・定期考査）

第五次……関①・読①（作文）

3. 授業の実際

授業の詳細について、生徒の各課題への取り組み方とアンケート調査の結果を交えながら記すことにする。

第一次では、授業の導入として、「かわいい」という言葉から思い浮かぶことと、「かわいい」という語を最近どのように使ったかをワークシートに記入させた上で発表させた。男子生徒の中には書くまでに時間のかかる者もいたが、女子生徒は全員がすぐに複数のものを挙げることができていた。「かわいい」という言葉から思い浮かぶものとしては、猫や犬などのペット、赤ちゃんや幼児などの年下の子ども、ぬいぐるみやアニメのキャラクター、花などの植物といった、小さく、幼く、愛らしいものが多く挙がった。生徒は楽しみながらこの活動に取り組んでおり、「かわいい」が学習のテーマだと伝えた際も、不安や抵抗を示す生徒よりは興味や期待を示す生徒の方がはるかに多かった。

第二次では、清少納言や『枕草子』に関する基礎知識について復習した後、指導者が作成したプリントと教科書を用いて、『枕草子』第151段「うつくしきもの」全文の学習に取り組んだ。まず、歴史的仮名遣いに注意してくりかえし音読しながら、傍訳と注をもとにおよその内容をつかんだ。次に、理解が難しい部分について解説を加えながら、作者が「かわいいもの（うつくしきもの）」としてどのようなものを挙げているか、それらの共通点は何かを考えた。生徒からは、作者が小さく、幼く、愛らしいものを「かわいい」ととらえていることを指摘する声や、この作者の感覚は自分たちと共通していることを指摘する声があがった。また、作者の「かわいいもの

(うつくしきもの)」についての見方・考え方としては、「かなり入り組んだ文もあるので、夢中になって自分がかawaiiと思うものを説明しているように思う」「作者は自分がかawaiiと思うものを詳しく説明しているので、こだわりがあるに違いない」という意見があり、かawaiiのものが好きな自分の姿と重ねる女子生徒もいた。

この第二次では、日本人のものの見方・考え方を考えるところにまで至る学習はできていないが、古人の「かawaiiもの」についての見方・考え方に興味を持ったり、約千年前の日本人と自分たちが同じ感覚を有していることに気づいたりしていく中で、その土台作りができたと考える。授業後のアンケートにおいても、『かawaii』という身近な話題のためか、枕草子は古文なのに楽しみながら読むことができました」「枕草子は古文で最初わかりにくいのかなと思ったけれど、意味をちゃんと理解するといろいろ共感できることが多くて、読んでいておもしろかった」といった回答があった。

第三次では、まず「かawaii」という現代語を国語辞書で調べた後、「かawaii」と現代語訳されることがある古語である「うつくし」「らうたし」「をかし」「かなし」「かはゆし」について古語辞書で調べた。現代語「かawaii」については辞書に載っている意味と用例をワークシートに書き写しただけであったが、古語については、それぞれの語の原義や語義の変遷、語の基本的な機能・用法・語感などを記した部分をワークシートに書き、語の基本義や全体的なイメージを把握した。図1に示した例では、「らうたし」について、「いたわってやりたい様」「子供や女性について、世話してやりたい、かわいらしいの意を表す」と記入している。次に、この学習を踏まえて、『枕草子』「うつくしきもの」の一節「をかしげなるちごの、あからさまにいだきて遊ばしうつくしむほどに、かいつきて寝たる、いとらうたし」の最後の部分になぜ「うつくし」ではなく「らうたし」が用いられているかについて考察した。図1の例では、『ちご』が自分に抱きついて寝てしまった様子は、・世話してやりたい・面倒を見てやりたい・いたわってやりたい・かわいらしいと思ったはずなので、『見事』である『うつくし』より『らうたし』の方がより筆者のきもちを表しているから」と、「らうたし」の基本義と本文の内容を結びつけて説明できている。

古語を辞書で調べる経験があまりない生徒も多かったので、この第三次の学習に抵抗を示す生徒もいるかと思われたが、「かawaii」と訳す古語の微妙な違いや使い分けを知って楽しむ様子も見られ、アンケートには「このような形で学習すると、古文・古語がわかりやすく学べたので、古語をつらく感じる事がなかった」という回答があった。

この第三次では、「かawaii」に関する言葉の成り立ちや意味の変化を知る活動を通じて、言葉についての理解を深めることができた。また、「かawaii」に当たる古語が多くあることから何がわかるかを問うと、生徒からは、昔の日本人が言葉を使い分けるほど「かawaii」という感覚を大切に、「かawaii」に関する繊細な感覚を有しており、それは小さく、幼く、愛らしいものを好み、自分なりの「かawaii」という感覚を他の人に楽しそうに伝えよう現代の日本人にも通じる、という意見が出た。

第四次では、「かawaii」をテーマとして書かれた現代の評論文と Kawaii を紹介した英文文献

表1 第四次で用いた資料

資料①	四方田犬彦『「かわいい」論』第2章pp.29-33（そもそもは『枕草子』）
資料②	四方田犬彦『「かわいい」論』第2章pp.37-43（外国語に「かわいい」はあるか） ※一部中略
資料③	四方田犬彦『「かわいい」論』第5章pp.92-97（小さきものは、皆うつくし・「縮み」志向の日本人）
資料④	(1)YourDictionary（ www.yourdictionary.com/ ）のKawaiiの項目 (2)Collins English Dictionary（ https://www.collinsdictionary.com/dictionary/english ）のKawaiiの項目 (3)Wikipedia（ https://en.wikipedia.org/ ）のKawaiiの項目（一部） (4)Manami Okazaki & Geoff Johnson. <i>Kawaii!: Japan's Culture of Cute.</i> の introductionの部分

表2 課題五～八の内容

課題五	「かわいい」という現代語がどのように成立したか、その過程を図示する。 〈ねらい：「かわいい」についての時間軸での理解〉
課題六	日本語の「かわいい」と「かわいい」と訳される外国語の違い、そこから見える文化や認識のありようについて、資料をもとにまとめる。 〈ねらい：「かわいい」についての空間軸での理解〉
課題七	「かわいい」からわかる日本人の美意識や志向性について、資料をもとにまとめる。 〈ねらい：「かわいい」と日本的なものの見方・捉え方との関わりについての理解〉
課題八	海外でKawaiiがどう紹介されているかについて、資料をもとにまとめる。 〈ねらい：日本の「かわいい」と海外でのKawaiiの違いについての理解〉

この四つの課題については、課題五は資料①、課題六は資料②、課題七は資料③、課題八は資料④を主に用いることになっているが、制限を設けず、第三次までの学習や他の資料も積極的に用いるように伝えた。図2-1に示した例では、課題五に取り組む際に第三次の「うつくし」「かはゆし」といった古語についての学習内容を用いたり、課題六に取り組む際に資料①の「かわいい（かはゆし）」の意味の変遷について書かれた内容を用いたりしている。それぞれの課題については、まずは個々で取り組んでワークシートに書き、その後6～7人の班でそれぞれの課題の担当者を決め、班員どうしで互いにアドバイスしあいながら班としてのワークシートを完成させるという過程を踏んだ。

指導者は、上記の活動を個人・班で行っている間、机間巡視を行いながらできるだけ個人・班

に声をかけ、どこでつまづいているかを聞き、どのようなところに着眼して考えていけば良いかについてアドバイスをを行った。課題五では語形の変遷と担っている意味の変遷をいかに表現するかについて、課題六ではどこが英語やイタリア語といった個々の外国語との比較の結果を述べている部分か・どこが比較全体をふまえてまとめている部分かについて、課題七では日本人の美意識はどう外国と異なるか・韓国の比較文化学者李御寧が指摘する日本人の志向性はつまるところ何かについて、課題八では英文の日本語訳や、海外で紹介されている Kawaii の全体像をどう捉えていくかについてつまづいている生徒が多かった。

各班のワークシートが完成した段階で、それらをすべて縮小印刷してクラス全員に配布し、各班の責任者に文章のどの部分に注目したかや工夫した点などを発表させた。図2-1と2-2に示した課題五～七のワークシート例のように、表に整理することによって語形と意味の変遷をわかりやすく表現する、語の意味の違いを比較しやすくする、日本人の美意識・傾向・性質を他国と比較しやすくするといった工夫が見られたほか、図2-2に示した課題八のワークシート例のように、いくつかの項目を立てて整理するといった工夫が見られた。考えたことをどう表現するかの違いやそれぞれの工夫に学びあう中で、「かわいい」という日本語の背景にある日本の文化や、日本人のものの見方・考え方について考えを深めることができた。

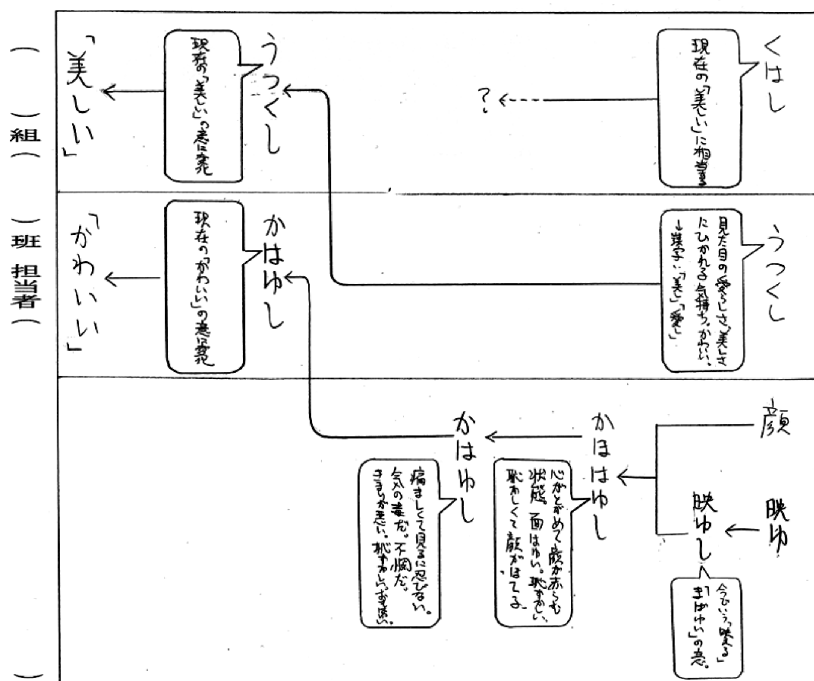
この第四次全体を通じて生徒は意欲的に学習に取り組んでいたが、特に関心が高かったのが日本語と外国語の違いやそこから見えてくる文化やものの見方・考え方の違い、日本語が諸外国の人々にどのように受容されているかといった内容であった。アンケートにも、「外国語と日本語の『かわいい』の違いなど、このような授業がなければ一生知らなかったかもしれない。とても面白かった」「ふだんにげなく使っている『かわいい』という言葉がどのように発生し、外国の人がどう見ているかを知ることができておもしろかった」といった感想が見られた。

第五次では、第一次から第四次までの授業全体をふりかえり、学習してきた内容を確認した後、「『かわいい』から考える日本と日本語」というテーマで自分の考えを書く活動を行った。この作文を書く際には、授業で扱った古典や評論文などの要約をするのではなく、読んだり調べたりした内容と自分の知識や経験を重ねたり、自分のものの見方や考え方が広がった部分について言及したりしながら、自分の考えを中心に書くように指導した。図3に示した例では、新宿駅で女優の広告を見た経験や塾の厳格な先生が照れた様子を「かわいい」と思った経験などから、「かわいい」の意味を「憧れ」「隙」とし、この二つの観点から考察している。この作文についてはなかなか書き始められない生徒も少なくなかったので、指導者は机間巡視を行いながらそれぞれの文章などには「かわいい」からどのような日本の文化や、日本人のものの見方・考え方が見えると書いてあるか、それに関連する経験や見聞はないか、自分はどのような意見を持つか、広げて言えることはないかなどを聞きながらアドバイスをを行った。生徒の作文の内容については、次の4章でふれることにしたい。

「かわいい」から見える日本 課題六 清書

「かわいい」という現代語はどのようにして生まれたか、説明しなさい

※文章を基に、できるだけシンプルに図示してみよう。古語「うつくし」「かはゆし」を辞書で調べたこともいかしてみよう。



「日本語の『かわい』
 ようなことがわかるか。」

※具体例をまとめている部分に注目しよう。

わかること	現在の 意味	意味の変遷		漢語
		かわい ← 宝てやりた かわい ← かわいそう かわい ← かわいかしい	かわい	日本語
②	和的・和明土 を含んでいる	かわい ← 気が利した かわい ← 利口な かわい ← 鋭い	cute	英語
		かわい ← 心地よい かわい ← 立派な かわい ← 巧みな かわい ← 利づかい	pretty	
	かわいくて親しい + 高級感		Caro	伊語
	かわいくて親しい + 安っぽい		carino	
	主) 子どもの顔をその 呼ぶとき(他の品名)		gentil	
	ただ小さい		petit	仏語
	小さくて愛らしい (範囲は小さい)		mignon	

① 単語とは異なる語学的発展をしている。
② 一見表面的に似通った意味を持つ単語だがそれぞれもっている文化的射程が異なる。
(範囲がそれぞれ異なる)

①は「かわい」のもつ微妙な陰影が、容易に普遍的に翻訳されることを許さず、日本文化に帰属したものであること。

⑥ いずれの言語においても、カワイイに相当する単語には、つねにいくぶんかの軽蔑的、否定的な含みが漂っていること。

②他国では、女性に「美しい」と呼ばれることに賛美意を示すが、日本では「美しい」という単語はこなれておらず、「かめい」の方が言葉をも真意として受け止めること。

図2-1 第四次の課題五・六のワークシート例

課題八 清書

「かわいい」から見えてくる日本人の美意識・日本人の傾向・性質とは何か
※筆者が引用を基に何を言おうとしているかに着目しよう。

成り立ち
かほゆし ↓ かほゆし ↓ かわゆい ↓ かわいい に変化して、
今でも東北の方言などには、めんこい という言葉が残っている。
未熟な小丁の者に使う言葉 ↓ 年いたものや皇室にまで使われる
かわいいとは
・小丁の者、未熟なものの子供、ぼさや明るさを表す
・愛らしさや美しさの質を表す
・日本での「かわいい」
・女子が最もよく使う。使わない日がないほど多い。
・コミニケーションを円滑にする。
・娯楽や暇、食の人の行動やマナーまで、日本文化の有名な側面
・まんがやアニメ、モラクターによって「かわいい」文化がつけられている
・外国では「かわいい」
・アメリカではアニメやまんがなどの若者を中心に、「かわいい」の人気
・環境をこえてアジアでも人気が得ている
・東南アジアでは「かわいい」商品の多々つくられている
・「かわいい」は、古くから小工の者の呼び名の愛らしさに使われて王に言葉、今では日本文化への大きな特徴として海外にも広がっている。

「kawaii」は外国の人々にどのように紹介されているか（外国の人々は「かわいい」をどのようなものとして受容しているか）。

※主に資料④を参考に、単に訳すだけではなく、自分の言葉でまとめよう。

— 171 —

「かわいい」から考える日本と日本語⑦

() 組 () 番 氏名 ()

テーマ＝「かわいい」から考える日本と日本語

題名＝

隙

私は塾に行くのに、新宿原居を便り。新宿には、有名な女優の広場が、そこに大きく見せられている。私はそこを通るたびに「かわいいな」と思ってしまう。

さらに、私の塾にはとても厳格な先生がいる。普段から厳しく私に生徒と接している先生だが、ある日の授業中、ある生徒の発言が、急に眼を刺したことがある。私はそれを見過ごすことが出来ず「かわいい」と思ってしまった。

今述べた2つの例における「かわいい」は、それぞれ全く異なる意味を持っている。このように、私は「かわいい」には2つの意味があると思っている。それは、「憧れ」と「隙」だ。

「憧れ」に対するかわいさは、比較的わかりやすい。先に挙げた、女優の広場だけでなく、おしゃれな洋服や人気キャラクターグッズなど、街のショーウィンドウを見れば、そういうかわいさはたくさんある。

一方、隙、はわかりづらい。たとえは、先述した厳しい先生が、眼を刺した発言は決して甘くはなかった。完璧な先生に見える、そんな先生が、生徒の発言でいつも見せない表情を見せた。そこに眼を刺した先生の「隙」が、かわいさに結びつく、という

意味だ。

「憧れ」は誰かを見るものだし、これに対して「かわいい」と思うのも自然な話だ。でも、人は「隙」を「かわいい」と思ってしまうのか。

そこで一旦「かわいい」から離れてみる。「隙」の意味を辞書で調べてみると、「気の中が、油断」といったことが書いてある。これを見ると、悪い意味なのかと思ってしまうが、もう少し具体的に考えてみると、新しい友だちができたとして、最初はもうろくに、お互いに心の底から言いたいことを言い合うことはできない。だが、しばらくして徐々にうらやますると、相手が他の人が知らないような自分のことを話してくれたら、秘密を共有したようなことになるだろう。このとき相手は、自分に心を開いてくれている、ということになる。

隙、に対してかわいさは、この「心を開く」ということを深く関係していると思うのだ。

授業で「かわいい」という言葉が外国人にどう紹介されているかが書かれた資料を皆で読んで、際、「かわいい」という言葉は女子間でのコミュニケーションをとるツールとして重要な役割を果たしている、と書かれていることを学習した。そこからわかるのは、「かわいい」という言葉が人と人との距離を縮めるといふことだ。

これを「隙」と眼を刺し合わせると、「隙」が見えるということ、相手が少なからず自分に心を開いている証拠だ、ということになる。

もちろん、相手が自分に心を開いてくれるのは嬉しいことだし、しかし、「隙」から「かわいい」に近づける道がまだ見えない。

そもそも「かわいい」とは何か。「かわいい」を漢字で書くと「可愛」となる。母国から想像するに、愛らしい、愛おしいと

いった印象がある。

もう少し具体的にするために、私の好きな曲の歌詞を引用して考えてみる。

①「かわいい話ばかり聞かなくて、これは昔を懐かしむ曲の歌詞の一部だ。昔の思い出はどれも「かわいい」ものだった、という意味合いだろう。この「かわいい」は、もう戻ればよかった日々を愛おしく思った結果出た言葉だと考えられる。

②「かわいい歳月を君と暮らしたら、これは、想いを寄せる相手と共に暮らすことを夢見た曲である。言うことは、君との生活、君と過ごす歳月を愛おしく思っている心情がうかがえる。

二つの「愛おしい」は、もう手に入らないもの、叶わないことを思い、続ける苦しみを含んだ愛だと想像できる。苦しみさえあれば、授業で調べた「かなし」という言葉が思い出される。「かなし」も「かわいい」を示す言葉のひとつであり、その意味は「ある対象に対して痛切な思いで、心が動かされるさま」。先述の歌詞における「かわい」は、この「かなし」に近いところがあるだろう。

「隙」に戻る。厳格な先生が見せた「隙」は、一瞬かもしれないが、心に開いた証であり、その隙はあくまでも一瞬だ。その限られた隙に対して痛切な思いが、「かわいい」とつながるの、ではないだろうか。

この「隙」に対するかわいさは、ほんとに日本人らしい感情だと、思う。日本人は他国の文化に比べて敏感で、かゆいところをかゆが、確かに人と接する上で慎重に動き、心を開くことが

時間がかかる。だから、相手が心が開いたことに愛おしさを感ずってしまうのは自然だろう。

もっと明確にとか、自分の意見を表に出さう、といったことは、よく言われるし、正しいと思う。しかし、日本人の慣れだが、日本中に存在する「かわいい」の文化を生かしたのも、まさに事実である。この文化が、ずっと続くことを願うばかりだ。

図3 第五次で生徒が書いた作文の例

第一次から第五次までの授業全体を通じて、ほとんどの生徒は興味を持ったり楽しんだりしながら積極的に各課題に取り組むことができており、提出されたワークシートと作文のほとんどが十分満足できる内容であった。アンケートにおいても、「授業を通じて、日本語や日本文化について積極的に考えることができた」という項目に82.9%の生徒が「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答している⁹⁾ほか、「最初は国語の授業で扱うほど深い内容なのかと思ったが、『かわいい』から日本の古語・文化・特性にまで広がっており、とても楽しい授業だった」「『かわいい』は普段そこまで意識せずに使っていたので、『かわいい』から日本文化や日本語について深く知ることができたのは新鮮だった」といった授業のねらいに対して肯定的な自己評価を行っているものが多く見られた。このようなことから、ほとんどの生徒は「かわいい」という日本語の背景にある文化やこの語から見えてくる日本人のものの見方・考え方に興味を持ち、積極的に考えることができたと考える。

4. 生徒の書いた作文について

本章では、第五次で生徒が書いた作文の内容をもとに、この授業を通じて生徒はどのようなことに興味を持ち、「かわいい」という日本語からどのような日本文化や日本人のものの見方・考え方を見いだしたかについてまとめておくことにしたい。

作文は、そのほとんどが授業で扱った古文・評論文・英文の内容や古語について学習した内容を何らかの形で取り入れながら書かれていた。どの内容を取り入れていたかを第二次で扱った『枕草子』、第三次で行った古語に関する学習の内容、第四次で扱った資料①、②、③、④の別にまとめると、表3の通りとなった。なお、最も多い者でこのうちの5つの内容を取り入れており、取り入れている数の平均は1.9であった。

最も多かったのが資料②で、約半数の生徒がこの内容を作文に取り入れていた。資料②は日本語の「かわいい」と「かわいい」と訳される外国語の違いを基に、日本と諸外国で文化や認識に違いがあることを論じたものであったが、この内容に対する生徒の関心が高いことがうかがえた。次に多かったのが資料①・③・④でいずれも30%あまり、少なかったのが『枕草子』と古語の学習で、20%弱であった。古文・古語から日本文化や日本人のものの見方・考え方を見いだしているという生徒は少なかったという見方も、一定数いたとする見方も可能である。

次に、「かわいい」からどのような文化や日本人のものの見方・考え方を見いだしたかについて記述している部分に着目し、記述している割合の大きいものから順に並べると表4のようになった（5%未満のものについては省略している）。

表3 作文にどの学習内容を取り入れたか

『枕草子』	古語の学習	資料①	資料②	資料③	資料④
19.5%	18.8%	31.6%	50.4%	32.3%	33.1%

表4 「かわいい」からどのような文化や日本人のものの見方・考え方を見いだしたか

①	40.6%	日本語は変化している。日本の文化・社会は変化している。
②	37.6%	日本人は、小さいものや壊れやすく可憐なものに美を見出す感覚を持っている。
③	34.6%	アニメ・漫画・キャラクター・奇抜なファッションなどが日本を代表する文化（Kawaii）として認知され、諸外国に紹介されている。
④	30.8%	日本語は指す意味の範囲が広く、曖昧なところがある。
⑤	21.8%	日本人には、他者に同調したり、本心を見せないところがある。
⑥	15.0%	日本人には、物事を縮小していくところがある。
⑦	12.0%	日本人には、他の人とのつながりを大切にしているところがある。
⑧	11.3%	日本人は、未成熟なものを美として肯定する感覚を持っている。
⑨	11.3%	日本人には、相手を気づかい、重んじるところがある。
⑩	9.0%	日本人は、とても豊かな感性・繊細な感性を持っている。
⑪	5.3%	日本はとても平和な国である。日本人は平和を重んじている。

このうち、②・③・⑥・⑧は授業で扱った評論文に示されている内容と重なるものであり、生徒が資料以外の内容を指摘したわけではない。これらの内容しか示されていない作文は約11%あったが、そのほとんどは評論文にはない自らの経験や見聞を記したり意見を述べたりすることはできており、授業中に扱った資料の要約のみで終わっているものはほとんど無かった。また、②・⑥・⑧については全て肯定的な意見を述べていたが、③については、奇抜なファッションなどにも「危害を加えないもの」「人と違ってよい多様性」という点で『枕草子』の指摘する「かわいい」ものとの共通点が見いだせるなどの肯定的な意見もあれば、「海外の人はかなり大きな勘違いをしているのだということが極めてよくわかる。あんな格好をしている人たちは極少数だし、全くもって日本文化だとは思わない」という否定的な意見もあった。

最も多かったのは、①「日本語の変化や日本の文化・社会の変化」を指摘した作文である。「かわいい」は、「顔がほてる」「恥ずかしい」といった意味だった「かはほゆし」とは大きく異なる意味を持つようになったが、現在もその意味が変化し続けているといった内容のものが多く、「人と人とのコミュニケーションが重要だと考える日本文化の上で、『かわいい』は新しい進化へと向かっているのです。」としている作文、「ヤバイ」という言葉も例に挙げながら「日本語は少しずつ意味が広がっている」としている作文、「かわいい」の使用範囲の広がりを指摘したあと「『かわいい』が今のまま同じ使われ方をし続ければ『かわいい』という言葉自体は残っても、日本独自の文化である『かわいい』はすたれてしまうだろう」としている作文などがあつた。

②・③を除き、次に多かったのは、④「日本語は指す意味の範囲が広く、曖昧なところがある」・⑤「日本人には、他者に同調したり、本心を見せないところがある」といった内容を含む作文である。「かわいい」が幅広い意味を持つことを指摘し、他の日本語も意識しながら「ここで予測できるのは、日本語はピンポイントを指す言葉ではなく、様々な意を指す言葉が多いのではないか、ということである」といった作文や、「意味が広い言葉をつかうことで、伝えたいことを少しあいまいにすることができる。相手が気を悪くしないように遠回しに言ったり、ハッキリ言わなかったりするの日本人に多いことだと思う」「つまり、日本人は集団の同調性をたもち、一体感維持のために『かわいい』という言葉を使っているのではなからうか」と述べた作文があつた。日本語の曖昧さや日本人があまり本心を見せないことに対しては、「日本人の奥ゆかしさ」として肯定する意見もあれば、「自分の考えを具体的に伝えることができなくなるのはさけるべきだ」と否定的な意見もあつた。

⑥・⑧を除き、1割前後の作文が盛りこんでいたのが、⑦の「日本人には、他の人とのつながりを大切にすることがある」、⑨「日本人には、相手を気づかい、重んじるころがある」、⑩「日本人は、とても豊かな感性・繊細な感性を持っている」といった内容であつた。具体的な作文の記述としては、「ここからわかるのは、『かわいい』という言葉が人と人の距離を縮めるということだ」「これらの意味、全てに共通するのは、相手への敬意が含まれていることだ」「日本には小さなものやはかないもの、弱いものを大切にすることがある。そしてそれは日本人の感性の豊かさがあって培われてきたのだと思う」といったものがあつた。

10編未満のものとしては、⑪「日本はとても平和な国である。日本人は平和を重んじている」のほか、「日本人は柔軟な宗教観を持っていることがわかる」としている作文など、様々なものがあつた。

生徒はまだ中学生ということもあり、論理の飛躍があつたり説得力に欠ける意見を述べたりしているものもあつたが、「かわいい」から実に様々な日本文化や日本人のものの見方・考え方をいだし、自分の考えを持つことができていた。授業後のアンケートにも「たった一つの単語から、日本の性質がこんなにも見えてくることに驚いた」といったものが多くあり、作文の執筆は実り多き課題であつたと考える。

5. まとめ

今回の授業は、中学校の国語の授業においてあまり扱われることがなかった、日本語の背景にある文化や日本人のものの見方・考え方について考えさせることを主たるねらいとしたものであった。これは中学生にとっては難しい課題であったが、中学生にとって身近な「かわいい」という語から考えていくことによって、抵抗感を抱かせることなく、興味を持ったり楽しんだりしながら学習させることができた。

第一次の導入の後に行った第二次と第三次では、古典に表れた作者の「かわいいもの」に対する認識や見方・考え方をとらえさせたり、言葉についての理解を深めさせたりするとともに、古人と現代の日本人が「かわいい」に関して共通した感覚を持っている部分があることに気づかせることができた。その後の第四次では、評論文や英文を読み、読み取った内容を四つの点で整理していく中で、「かわいい」という日本語の背景にある日本の文化や、日本人のものの見方・考え方について考えを深めさせることができた。最後の第五次では、『『かわいい』から考える日本と日本語』というテーマで自分の考えを書く活動を行い、読んだり調べたりした内容と自分の知識や経験を重ねるといったことを行いながら、「かわいい」から見えてくる日本の文化や日本人のものの見方・考え方について、自分の考えを持つことができていた。授業全体を通じて、提出されたワークシートと作文の内容、アンケート調査の結果から、多くの生徒は「かわいい」という日本語の背景にある文化やこの語から見えてくる日本人のものの見方・考え方に興味を持ち、積極的に考えることができており、授業のねらいはおおむね達成できたと考える。

一方で、わずかではあるが今回の授業に積極的になれなかったという生徒がいたこと、第五次の作文を書く課題をうまく進められない生徒が少なくなかったことなどは今回の授業の課題として残った。この改善をはかることを今後の一つ目の課題としたい。また、今回の授業で考えることができたのは、日本の文化や日本人のものの見方・考え方のほんの一面にすぎない。日本語の背景にある文化について考えたり、古典を読む中で現代にもつながる日本人のものの見方や考え方に触れたりする授業を、今後も考えていく必要がある。これを今後の二つ目の課題としたい。

注

- (1) 筑波大学附属中学校の2年生82名を対象に、2017年7月に実施した。
- (2) この「小学校で、日本の文化や日本人のものの見方・考え方について考える国語の授業をどの程度受けましたか」という項目に、「ほとんど受けなかった」と回答した生徒が最多の36.2%、「少し受けた」が28.8%、「全く受けなかった」は7.5%であった。
- (3) この「小学校で、日本の文化や日本人のものの見方・考え方について考える国語以外の授業をどの程度受けましたか」という項目に、「ほとんど受けなかった」と回答した生徒が最多の33.8%、「少し受けた」が28.8%、「全く受けなかった」は22.5%であった。
- (4) 坂東智子（2015）「国語科教員養成課程で出会う『枕草子』」（『山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要』、第39号、pp. 63－72）p. 65

- (5) 中央教育審議会 (2016a)「教育課程部会国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめについて(報告)」(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/068/sonota/1377097.htm 2017年3月31日確認), p. 12
- (6) 中央教育審議会 (2016b)「言語能力の向上に関する特別チームにおける審議の取りまとめについて(報告)」(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/056/sonota/1377098.htm 2017年3月31日確認), p. 3
- (7) 櫻井孝昌 (2009)『世界カワイイ革命』(PHP研究所), p. 14
- (8) この課題を設定するにあたり、栃木県総合教育センターのホームページに掲載されている実践(『うつくし』『らうたし』を手掛かりにして文章を読み味わう)(<http://www.tochigi-edu.ed.jp/hiroba/plan/detail.php?plan=C3001-0059> 2017年3月31日確認)を参考とした。
- (9) この「授業を通じて、日本語や日本文化について積極的に考えることができた」というアンケート項目に、「どちらともいえない」と回答した者は16.0%,「どちらかというとはてはまらない」「あてはまらない」という否定的な回答はしたものは1.1%と0%であった。

謝辞

本稿は、第14回筑波大学教育学会で発表したものに加筆・訂正したものです。ご質問・ご意見をいただいた方々に感謝申し上げます。